

〔相模集〕さかりすぎてくちたるなしを、おさなき人の許にやるとて、たゞならじとて、をきかへし露ばかりなるなしなれど千代ありのみと人はいふ也

○按ズルニ倒語ノ事ハ禮式部、兵事部等ニ散見シタレバ、多ク省略ニ從フ、

〔伊呂波字類抄疊字〕諷言 ソヘコト

〔鳩巣小説〕一井上新左衛門ハ名譽ノ口キ・ニテ候、元右筆ニテ、後ニ御勘定頭ニ成申サレ候、或時初鱈ヲ何方ヨリカ獻ジ申候、名人松平伊豆守殿見届被申處、塵付有之候、伊豆守ドノ役人ヲ以テ殊ノ外叱リ申サレ、不念至極ノ義ニ候、是ヲ御前ヘ出シ候テ、ヨキモノカトテ、叱リ申サレ候ヘバ、新左衛門傍ニ居候テ、イヤ鱈ニハチリ有モノニ御座候ト申候ヘバ、伊豆守ドノ何ト鱈ハチリ有モノトハ、聞ヘヌコトヲ申候ト被申候ヘバ、新左衛門イヤ三番叟ニチリヤタラト申候由被申候ヘバ、伊豆守殿又新左ガヲドケヲイワレ候トテ、笑申サレ候、是ハ伊豆守ドノ性ノ急ナル處ヲ、諷シ申氣味ニ候、

○按ズルニ、諷諫ノ事ハ、諫篇ニ散見ス、

〔書言字考節用集八言辭〕流言ゴン毛詩註、浮言フクヨウ不根之言也、
流言フクヨウ詩モモ

〔日本書紀十雄略〕三年四月、武彦部連城之父枳苦喻聞此流言恐禍及身コト下

〔日本書紀十七體〕六年十二月、或有流言曰、大伴大連與哆唎國守穗積臣押山受百濟之賂矣、

〔類聚名義抄五言戲語タハフコトトコト〕

〔運歩色葉集景〕戲言 天子無言

〔書言字考節用集八言辭〕
○戯言コト妖言ヨウゴン、狂言クヤヒ並同、

〔源氏物語二木中納言の君、中務などやうの、をしなべたらぬ、わか人どもに、たはぶれごとなどの給ひつゝ、略下〕